

表 コートジボワールへの主な外国投資事例(2017年6月～2018年5月)

部門	外国投資の事例
石油・ガス	<p>・英タローオイル(Tullow Oil)は、ガーナ領海と接する海底油田CI524と沖合油田CI—520の2鉱区の開発権のほか、CI-518、CI-519、CI-301、CI-302の4鉱区で権益の90%を取得。</p> <p>・米コスモスエナジー(KOSMOS ENERGY)と英BPは、海底油田鉱区CI-526、CI-602、CI-603、CI-707、CI-708の権益を取得。</p>
非石油	<p>・インドSHILOH INDUSTRIESは、北部コロゴ地方のマンガン鉱山で操業を開始。</p> <p>・カナダManncha、モロッコのマナジェム(Managem)、英Aucrest Sarlはそれぞれ、新たに金鉱探査権を取得。</p> <p>・コートジボワールのLagune Exploitationは、日本の大手商社とボーキサイト開発の提携で交渉中であると発表。</p> <p>・英ランドゴールドリソース(Randgold Resources)とカナダのエンデバーマイニング(Endeavour Mining)は、北部地方に位置するSissedougouおよびMankono地方の金鉱山の共同開発で合意し、合弁会社を設立。</p>
エネルギー	<p>モロッコのノヴァパワー(Nova Power)は、北部コロゴ地方で官民連携スキームによる能力25MWの太陽光発電事業計画を発表。事業費は4,000万ドルと見積もられる。</p> <p>・中国Sinohydroは、スプレ・ダム(総工費5億9,200万ドル、発電能力275MW)に続いて、ササンドラ河流域のGribob Popoli(112MW)、Louga(280MW)、Boutoubre(156MW)3カ所の水力発電事業に着手。中国輸出入銀行が融資。</p> <p>・仏エンジー(Engie)は、コートジボワールを拠点にブルキナファソ、マリ、ニジェールで電気工事・設備設計・施行・エンジニアリング・保守事業を展開するアフリックパワー(Afric Power)とティエリ(Tieri)の2社を買収し、西・中部アフリカ地域における事業拡大を狙う。</p> <p>・蘭Lumos Globalと南アMTNは、モバイル・ソリューションを活用した電力供給事業で提携し、オフグリッド太陽光発電システムによる電力供給と、電力料金の電子決済システムを立ち上げる。</p> <p>・米ペリー・エネルギー長官は、南アで開催された「アフリカ・オイル・ウィーク」で、米国がコートジボワール、ナイジェリア、南アとの間で、エネルギー供給協定に調印したと発表。政府関係筋によると、米国はこれら諸国と液化天然ガス、石炭の調達について交渉を進めている。</p> <p>・政府は、仏トタル(Total)、英/蘭シェル(Shell)、アゼルバイジャンSocar、米Golar、Endeavor、Petroci、CI-Energieの企業連合との間で、GNL輸入ターミナル事業の覚書に調印。工費は2億ドルの見込み。</p> <p>・シンガポールのトラフィグラ(Trafigura)グループのプーマエナジー(Puma Energy)は、石油開発公社(PETROCI)が管理する37カ所のガソリンスタンド網を買収。譲渡額は明らかにされていないが、200億FCFA前後とみられる。</p> <p>・仏EDFは、パーム油残渣を利用したバイオマス発電事業に着手。事業費は1,000万ドルと見積もられる。</p>
農業・農産品加工	<p>・南アのJABドライフードプロダクツ(JAB Dried Fruits Products)は、北部コロゴ地方で乾燥マンゴー加工を計画。同プロジェクトは、米国国際開発庁(USAID)、農業評議会基金(FIRCA)、コートジボワール商工会議所の支援を受けて実施される。生産能力30トン規模の工場が3カ所に建設される予定。</p> <p>・コートジボワールで鉄鋼、乳製品、プラスチック製造に進出するレバノンのユーロフィン(Eurofind)グループは、カシューナッツおよびカカオ豆加工計画を発表。</p> <p>・ネスレ・コートジボワールは、ヨブゴン工業団地で60億FCFAを投入し、西アフリカ地域統括拠点となる流通センターを開設。</p> <p>・菓子メーカー大手ハーシー(The Hershey Company)は、カカオ豆およびカシューナッツ加工、子供向け栄養補助食品製造計画を発表。</p> <p>・米食品加工大手シーボード(Seaboard Corporation)は、コートジボワールとセネガルの製粉大手Mimranグループのダカール、アビジャン、サンペドロの3製粉所を3億1,760万ユーロで買収。これら製粉所の生産能力は年間、小麦粉65万トン、飼料11万トンで、両国の製粉市場の約4割を占め、売上高は約2億ユーロ。シーボードは、世界45カ国で食品加工事業を展開。アフリカでは、ナイジェリア、ガーナ、ケニア、南ア、モロッコ、アンゴラ、ウガンダ、コンゴ民主共和国など16カ国に進出している。同社の2016年売上高は45億3,000万ユーロ。</p> <p>・天然ゴム開発SAPHIは、スッド・コモエ地方に生産能力6万トンのラテックス加工工場を建設。同社6カ所目の工場、アフリカで最大規模となる。総工費は80億FCFA。</p> <p>・蘭ハイネケン(Heineken)と豊田通商子会社のCFAOは、協業するビールメーカーブラシボワール(Brassivoire)の生産能力拡大のため、200億FCFAの投資計画を発表。生産能力は、現在の年産1,600万ヘクトリットルから、2,700万ヘクトリットルに拡大する。</p> <p>・モロッコ不動産開発大手Addoha Douja Promotionは、稲作・精米事業計画を発表。同社はすでにセネガルの北部地方で、10億モロッコ・ディルハムを投入し、1万ヘクタールの稲作開発に進出している。</p> <p>・仏農産品加工SOMDIAAは、コートジボワールの子会社SUCAF(製糖)の生産設備拡張計画を発表。工費は840億FCFAと見積もられる。</p>

ジェットロ「ビジネス短信」添付資料

部門	外国投資の事例
農業・農産品加工	<p>・シンガポールを本拠地とするハルシオン・アグリ(Halcyon Agri)は、天然ゴム開発会社TRCIの株式18.8%を510万ドルで買い増し、株式の2/3超となる70%を取得。</p>
	<p>・米ファストフードチェーンのケンタッキー・フライド・チキン(KFC)は、アビジャンに1号店を開設。石油メジャー・シェル(Shell)の代理店であるヴィヴォエナジー(VIVO ENERGY)が展開するガソリンスタンドに併設する形で各地に出店を計画している。</p>
	<p>・米国穀物商社(Cargill)は、コートジボワールとガーナでカカオ豆加工工場の拡張計画を発表。同社は、カカオ豆の自社加工率を年間2~3%向上させる戦略で、カカオ豆の販売のみに頼らない収益構造の構築を目指す。</p>
	<p>・スイスのバリーカレポーは、4,570万ユーロのカカオ豆加工計画を発表。</p>
	<p>・モロッコHolmarcomグループの子会社である農産品加工デニア(Denia)は、グランバッサムのフリーゾーン「VITIB」で2,000万ユーロのカシューナッツ加工計画(生産能力1万トン)を発表。</p> <p>・イタリアの高級チョコレートドモリー(Domori)は、コートジボワール中部地方の農業団体Scay Scoopsが生産するオーガニック・カカオを使用した板チョコを「Costa d'Avorio」ブランドで発売。</p>
その他製造業	<p>・インドのファーマノヴァ(Pharmanova)は、VITIBで製薬工場の建設に着手。事業費は300億FCFAが見込まれる。</p>
	<p>・モロッコCIMAfiは、西部サンペドロ地方にセメント工場を建設。生産能力は200万トン。2013年にアビジャンに第1工場を建設しており、近く、中部ブアケ地方で第3工場の建設に着手する。</p>
	<p>・チュニア製薬大手サイフ(Saiph)は、VITIBで製薬事業に進出する。現在、3ヘクタールの敷地に100億FCFAを投入し、抗マラリア薬など注射剤を生産する工場を建設中で、2018年末に完工予定。</p>
その他製造業	<p>・モロッコ製薬大手ファーマサンク(Pharma5)は、ヨブゴン工業地帯で製薬工場の建設に着手。総工費600億FCFA。生産能力は、感染症治療薬、婦人病薬、抗ウイルス薬、鎮痛薬、抗生物質等年間1億錠、1,000万袋が見込まれる。同社にとって初の海外進出となる。</p>
	<p>・インフラ建設大手の中国鉄道建築総公司(CRCC)は、コートジボワールのフェニックスアフリカパートナーズ(Phoenix Africa Partners Holding)と戦略的協力協定を締結し、住宅建設計画を発表。</p>
	<p>・中国の復星(Fosun)グループは、製薬事業計画(マラリア治療薬など医薬品製造と医薬品物流センターの設置)を発表。</p>
	<p>・ポルトガルの建設大手Mota Engillは、1億4,000万ユーロのバイオガス発電プロジェクトおよび2021年にコートジボワールで開催されるサッカーアフリカカップに向けた8,300万ユーロのスタジアム建設計画を発表。</p>
金融	<p>・スイス再保険会社(SwissRe)は、コートジボワールのバンカシュランス大手NSIAグループの持ち株会社MANZI FINANCESの株式30%を1億ユーロで取得。NSIAグループは、アフリカ12か国で銀行・保険業を展開している。</p>
	<p>・政府は閣議で、国が保有するコートジボワール住宅銀行(BHCI)の株式51.6%をカナダ不動産金融会社ウェストブリッジモーゲージリート(Westbridge Mortgage REIT)へ譲渡することを決定。</p>
	<p>・バンク・デ・アビジャン(BDA)銀行が操業を開始。資本金は4,500万ドル。スペインの実業家で大手ゼネコンACSの取締役アルベルト・コルティナ(Alberto Cortina)氏が出資するBDK Financielグループと、コートジボワール郵便会社がそれぞれ80%、20%ずつ出資している。BDAは、2017年末までに全国32カ所に支店を展開するほか、今後、マリ、ベナン、トーゴへの進出を計画している。</p>
	<p>・米国に本社を置くクレジットカードのビザ(VISA)は、アビジャンに西・中部アフリカ地域統括拠点を開設。</p>
	<p>・オレンジ(Orange)は、2018年中にコートジボワールをはじめとする西アフリカ諸国経済共同体(UEMOA)諸国およびマダガスカルなどで、「オレンジ・マネー」を通じて小口の貯蓄、融資、保険などマイクロ金融サービスを導入するほか、小型太陽光発電キットを利用した電力供給事業を拡大していく計画。</p>
	<p>・英オンライン海外送金サービスのワールドレミット(WorldRemit)はクイックキャッシュ(QuickCash)と事業提携し、国内の支店網拡充とともにコートジボワールを拠点に仏語圏アフリカ地域での事業拡大を目指す。</p>
投資・資産運用	<p>・キャピタルリスクに特化した米国の暗号通貨プラットフォーム「ジュヌヴィエーヴ・エクスチェンジ(Geneviève Exchange)」は、コートジボワールで成長が期待される零細・中小企業150社を対象に、200万ドルの投融資計画を発表した。業種や分野は問わず、ブロックチェーン技術を用いて資金提供を行う。</p>
	<p>・プライベート・エクイティAmethis Financesは、コートジボワールを拠点に西アフリカ諸国で菓子製造を中心に進出する農産品加工大手AFRIWAREグループの株式を取得。</p>

ジェットロ「ビジネス短信」添付資料

部門	外国投資の事例
その他サービス	<p>・豊田通商の子会社CFAOと仏流通大手カルフル(Carrefour)が協業する複合型商業施設「PlaYce」の2号店がオープンした。総工費180億FCFA。CFAOは、アフリカでの小売り事業拡大計画の一環として、今後10年間にカルフルのスーパーを西・中部アフリカ地域8カ国に70店舗出店する計画で、年間10億ユーロの売り上げを目指す。</p>
	<p>・CFAOは、通販サイト「アフリカショップ(Africashop)」を立ち上げた。La Redoute、Vertbaudet、Maty、Somewhere、Devred1902、Etam、Elikya Beautyなど、ファッション、宝飾品、下着、コスメティックの大手メーカーのブランド品を取り扱う。</p>
	<p>・仏ラコステ(Lacoste)はアビジャンに、西アフリカで初の店舗をオープンした。店舗は、CFAOリテールが運営するショッピングモール「PlaYce」に出店した。ラコステとCFAOは、コートジボワールをはじめカメルーン、セネガル、ガボン、コンゴ民主共和国、コンゴ共和国においてブランド・パートナーシップで合意している。</p>
	<p>・エール・コートジボワール(Air Côte d'Ivoire)は、新たにエアバスからA320新造機を購入した。英・南アに本社を置く総合金融グループ傘下のインベストエックアビエーション(Investec Aviation)が航空機購入をファイナンスした。</p>
	<p>・ビデオ映像配信事業の世界大手ハーモニック(Harmonic)はピクサアフリカ(Pixafrika)と提携し、プレイアウト配信機能を持つ高品質のビデオ映像配信事業に進出する計画。</p> <p>・ブイグ・グループとスイスのチェーンホテルMövenpickは、コートジボワールの不動産デベロッパーSAPRIMと提携し、ホテル開発事業に着手した。最大都市アビジャンの行政、ビジネスの中心街ブラトー地区に客室160室の4星ホテルを建築する。2020年3月に竣工予定。工費は、6,000万ユーロと見積もられる。</p>
公共事業コンセッション	<p>・仏ボロレ・グループ(Bolloré Group)とデンマーク海運大手マースク(MAERSK)は、アビジャン自治港の第2コンテナターミナルの建設に4億ユーロの融資計画を発表。</p>
	<p>・アビジャン自治港でコンテナ・ターミナルを管理運営するアビジャン・ターミナルは、40億FCFAを投入し、港の機能増強に着手。</p>
	<p>・政府は、伊/スイス海運大手MSCとの間で、西部地方のサンペドロ港の拡張と管理運営に関するコンセッション契約を締結。同社は2008年より同港のコンテナ・ターミナルでコンセッション事業を実施している。</p>
	<p>・コートジボワール電気通信調整機関(ARTCI)は、電子取引法および電磁的記録の作成と保管に関する法令に則り、Cryptoneo、DKB ソリューションズ(Solutions)、ITAの3社に対し、同国で初めてとなる電子署名認証業務を認可した。</p>
	<p>・コートジボワール電気通信調整庁(ARTCI)は、Vipnetとの間で、携帯電話番号ポータビリティ導入に伴うデータベースの構築と管理運営事業の委託契約を締結した。</p>
	<p>・政府は、世界最大の検査・認証機関であるスイスSGSとの間で、電子機器廃棄物(E-Waste)の回収・処理にかかる委託契約を結んだ。契約には、電子機器のほか、電気機器およびタイヤの廃棄物管理も含まれる。</p>
	<p>・コートジボワールおよびブルキナファソ両国政府と鉄道事業のコンセッション契約を結ぶ仏ボロレ・アフリカ・ロジスティック(Bolloré Africa Logistics)の子会社SITRAILは、アビジャン～カヤ間を結ぶ鉄道改修工事に着工した。工期は8年で、総工費は4億ユーロ。</p> <p>・コートジボワール炭化水素総局と石油開発公社(PETROCI)は、仏物理探査コンサルタント大手CGGとの間で、陸上、海上、空中物理探査のデータ取得処理および解析の受託契約を締結。</p> <p>・仏マクロン大統領は、ワタラ大統領とともに「アビジャン都市鉄道」の起工式に出席。仏政府が14億ユーロの融資を行う同事業には、フランスのブイグ・グループ(Bouygues)、重電大手アルストム(Alstom)、コーラス・レール(Colas Rail)、フランス国鉄(SNCF)の子会社ケオリス(Keolis)で構成されるコンソーシアムが参画している。</p>
その他	<p>・独シーメンスは、アビジャンに西アフリカ地域統括拠点の設立計画を発表。同社はこれを足場に、地域諸国で電力や建物・交通管理事業に注力していく方針。</p>
	<p>・米ゼネラル・エレクトリック(General Electric)は、モニタリングセンターの設立計画を発表。同社によると、コートジボワールのエネルギー生産の74%にGE製品が貢献しており、より精度の高いメンテナンスを実施するためモニタリングセンターを設置する。</p>
	<p>・中国は、経済協力の促進に向けコートジボワール中国商業会議所(CCEC)を設立。</p>

(出所)各種報道、企業プレスリリースなどを基に作成